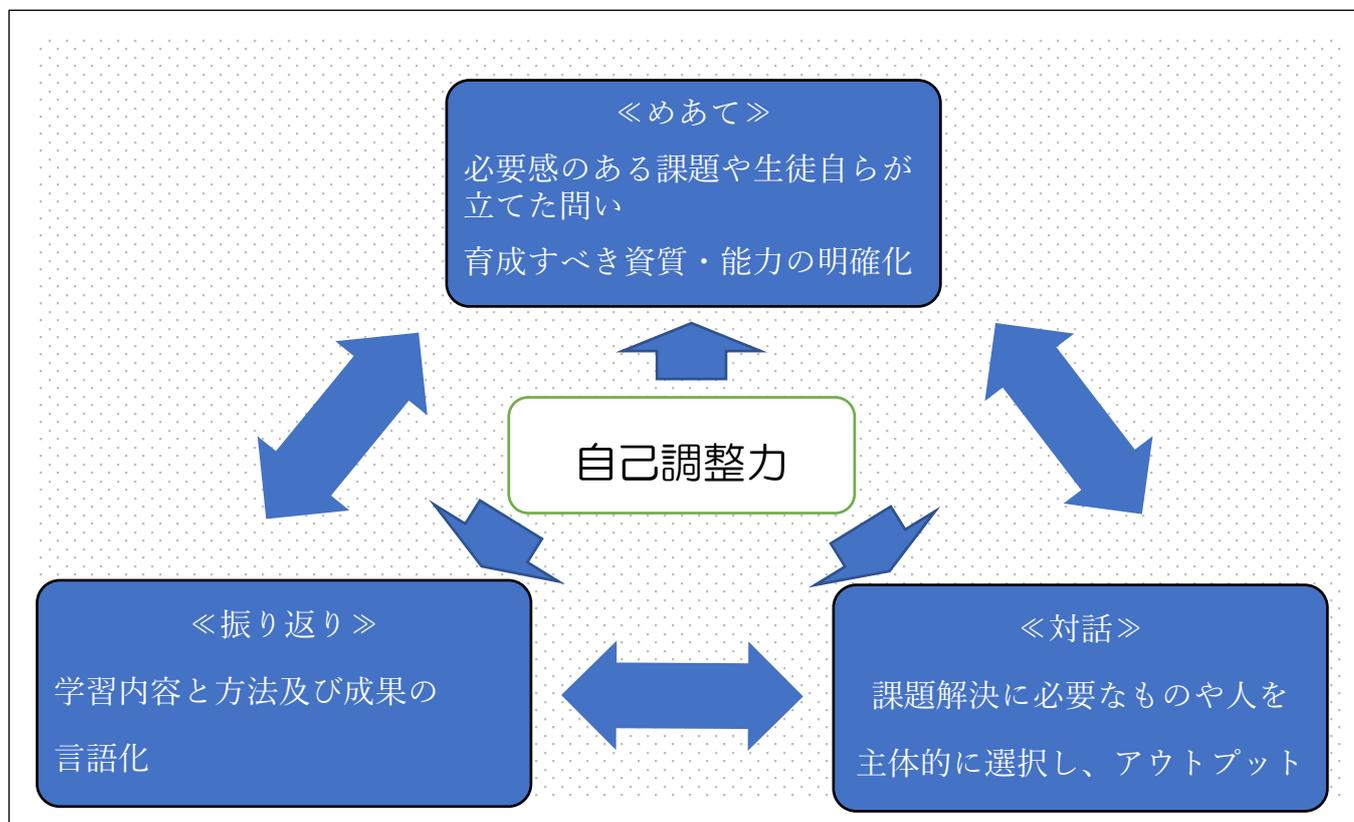


令和7年度 中山中学校 校内研究 概要

1 研究主題

主体的・協働的に学ぶ生徒の育成（2年次）

～自己調整力を高める学習過程の工夫～



2 ことばの定義

「自己調整力」とは、目標や課題へ見通しをもって取り組み、達成状況を意識しながら学習を進め、自分の学習を自分で評価できる能力のことである。

3 主題設定の理由

本校では「貢献 自立」という教育目標のもと、「地域・社会の課題解決に関心を高め、社会の形成に主体的に参画する生徒」、「夢と志をもち、肯定的に自己理解を深め、自己実現に努める生徒」を目指して、日々の教育活動に取り組んでいる。

昨年度は、中山中生の「自分の学びを調整する力」に課題があると捉え、「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成（1年次）～自己調整力を高める学習の工夫～」を主題とし、「課題設定と単元計画の工夫」、「学習過程の多様化」、「達成状況に意識を向ける振り返り（メタ認知能力の育成）」の3つの視点を柱にして研究に取り組んだ。

昨年度末に生徒に実施した学校評価アンケートによると、「何を学ぶか、どのように学ぶかを明確にして、自分で調整しながら学習を進めることができている」と自信をもって回答している生徒が3割程度であった。教職員へのアンケートでも、「何を学ぶか、どのように学ぶかを明確にして、自分で調整しながら学習を進めることができている」という回答が3割程度に留まっていた。このことから、生徒の意識を喚起し、自己調整を行う授業づくりが必要であると考えられる。生徒自身は自ら調整しながら

学習を進めているという意識がまだ低いということがわかった。そのため、今年度は研究主題を「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成（2年次）～自己調整力を高める学習過程の工夫～」として、生徒自身が目標と現在地を意識しながら、その差をうめるための方法を確認して実行する学習の調整を行う場面を設定して、生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりに力を入れていくことで、自己調整力を高めていく。

4 目指す生徒像

- (1) 自ら問いを立て、その解決に必要なものや方法を自己選択し、協働的に取り組もうとする生徒
- (2) 表現した内容や方法を振り返り、学び方を改善しようとする生徒

5 研究の視点と内容

本研究では、主に次の3点について研究を行う。

＜視点1＞ 課題設定と単元計画の工夫

単元の最後のゴールを見通して学習に取り組むことができる課題設定と単元計画を行う。

＜視点2＞ 学習過程の多様化

思考、判断する材料を用意し、自己選択（計画）させる場面を設定する。

＜視点3＞ 達成状況に意識を向ける振り返り（メタ認知能力の育成）

振り返りの方法を工夫するとともに、振り返りの例を生徒と共有する機会を設けるなど、自身の到達度を意識し、改善する活動を仕組む。

視点1～3を踏まえた流れのある学習活動と単元計画を設定し、生徒たちが一連のつながりを感じつつ、目標の達成状況を意識しながら取り組み、自己調整力を高めていけるような授業を展開させていく。

今年度は、特に視点3の「達成状況に意識を向ける振り返り」に力を入れて、各教科で振り返りの方法などを工夫して、生徒が自ら調整しながら学習を進めているという意識を高めたい。教科の特性に合わせて、単元のどのタイミングでどのような振り返りをするかを工夫して実施する。また、ポートフォリオを活用し、学びの過程を生徒自身が見られるように蓄積させていく。